

国指定史跡

しもふさこくぶん じ あと つけたりきたしたかわらがまあと
下総国分寺跡 附北下瓦窯跡

保存活用計画

2018.3

市川市教育委員会



史跡の現状

黄色：史跡範囲
赤色：寺域範囲



史跡周辺の様子（東から）



史跡（B1区）の現状



軒瓦（宝相華文）



北下瓦窯跡

序

市川市は、江戸川を挟み東京都の対岸に位置する面積56.39km²、人口約48万人の市です。首都圏への交通網が集中する利便性が高い住宅都市であり、豊かな自然環境に恵まれ、多くの歴史的文化遺産を有する文化の薫り高い都市として発展してきました。

当市には、堀之内貝塚、姥山貝塚、曾谷貝塚、下総国分尼寺跡、^{しもふきこくぶんじあとつけたりきたした}下総国分寺跡 附 北下^{かわらがまあと}瓦窯跡の五つの国指定史跡があり、古代より人々が暮らし文化を育んできた地域であることを今の私達に伝えています。

下総国分寺跡 附北下瓦窯跡は、当初昭和42年に下総国分寺跡として国の史跡の指定を受けました。その後、急速に進む周辺の開発によって発掘調査が行われるとともに、下総国分寺跡の寺院地、ならびに付属施設の確認を目的とした調査が、市川市教育委員会市立市川考古博物館によって行われ、寺域の区画溝、関連施設等が発見されました。平成13年度には大規模な掘立柱建築物群が確認されたため、平成14年に史跡区域に追加指定となりました。

こうしたなかで、史跡周辺では、東京外かく環状道路の建設工事が始まり、平成16年に北下瓦窯跡が発見され、下総国分寺の瓦を焼成した窯跡であることが明らかとなり、平成22年に史跡の追加指定を受け、名称も「下総国分寺跡 附北下瓦窯跡」と変更となりました。

当市では、史跡指定50周年となるこの貴重な史跡を保護し、確実に後世に伝えるため、平成28、29年度の2カ年で「国指定史跡下総国分寺跡附北下瓦窯跡」の保存活用計画を策定し、本書を刊行しました。本計画は、今後の史跡の保護・活用の礎となり、文化資産として未来の子供たちへ継承する第一歩となるものです。

最後に、本書の刊行に際しまして、長期間にわたりご理解とご協力を賜りました地元の皆様、市川市国指定史跡下総国分寺跡附北下瓦窯跡保存活用計画策定検討会の委員各位に深く感謝申し上げますとともに、多大なご支援、ご指導を賜りました文化庁、千葉県教育委員会の関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成30年 3月

市川市教育委員会

教育長 田 中 庸 恵

例 言

1. 本書は、国指定史跡『下総国分寺跡 附北下瓦窯跡（しもふさこくぶんじあと つけたりきたしたかわらがまあと』の保存活用計画である。
2. 本計画の策定は、平成28年度・平成29年度に国の補助金を受け、市川市教育委員会が行い、策定に係る事務等は、生涯学習部考古博物館が担当した。
3. 本計画の策定に係り、史跡周辺の現況航空測量を株式会社イビソク（平成28年度）に、図面等の作成を株式会社歴史環境計画研究所（平成28・29年度）に委託した。
4. 北下遺跡（北下瓦窯跡）の図面・写真については、公益財団法人千葉県教育振興財団の承諾を得て各報告書から複写・転載して掲載した。
5. 本計画で使用した史跡の位置図は、国土地理院刊行の「5万分1地形図 東京東北部」を加工・編集して使用し、資料編に掲載した昭和19年・昭和32年・昭和54年の航空写真は、国土地理院ウェブサイトを出典とする。
6. 本計画の策定にあたり、保存活用計画策定検討会（外部委員）の委員、保存活用計画検討委員会（庁内検討会）の委員、文化庁、千葉県教育庁文化財課、公益財団法人千葉県教育振興財団、鎌ヶ谷市教育委員会、国分寺市教育委員会、下野市教育委員会、糸川道行、木原高弘、栗田則久、後野真弥、三石宏、山口耕一、依田亮一をはじめ、多くの諸機関・諸氏の御指導・御協力を賜った。謝意を表したい。

本文目次

巻頭カラー
序 文
例 言
本文目次

第1章 計画策定の沿革・目的

第1節 計画策定の沿革	1
第2節 計画の目的	2
1. 現状と課題	2
2. 保存活用計画の目的	3
第3節 委員会の設置・経緯	4
1. 保存活用計画策定検討会（外部委員）の経過	4
2. 保存活用計画検討委員会（庁内検討会）の経過	5
第4節 他の計画との関係	6
第5節 計画の実施	8

第2章 史跡の概要

第1節 指定に至る経緯	9
第2節 指定の状況	9
1. 指定内容	9
2. 指定説明文とその範囲	11
3. 指定地の状況	13
4. 指定に至る調査成果	13
第3節 史跡の概要	25
1. 史跡の概要－下総国分寺跡 附北下瓦窯跡とは	25
2. 発掘調査の経緯	25
3. 発掘調査の成果	26
4. 下総国分寺の沿革	44
5. 周辺の関連遺跡	45

第3章 史跡の本質的価値

第1節 史跡の本質的価値と新たな視点	55
1. 国分寺の史跡としての価値	55
2. 下総国分寺跡の史跡としての新たな価値	55
第2節 構成要素の特定	59
1. 主要建物	59
2. 主要施設・付属施設	60
3. 瓦生産関連遺構	61

第4章 大綱・基本方針	
第1節 大綱	62
第2節 基本方針	62
第5章 保存（保存管理）	
第1節 保存の現状と課題	63
第2節 保存の方向性	64
第3節 保存の方法	64
1. 地区区分	64
2. 地区の定義と保存の手法	65
3. 現状変更の取扱方針及び基準について	66
4. 追加指定の方針	71
5. 公有化の方針	72
第6章 活用	
第1節 活用の方向性（現状と課題）	73
第2節 活用の方法	74
第7章 整備	
第1節 現状と課題	79
第2節 方向性	80
第3節 方法	81
第8章 運営・体制の整備	
第1節 現状と課題	84
第2節 方向性	84
第3節 方法	85
第9章 施策の実施計画と経過観察	
第1節 施策の実施計画	86
第2節 経過観察	87
資料編	
1. 用語集	
2. 史跡の指定説明	
3. 下総国分寺跡周辺の航空写真	
4. 関連計画（文化財関係部分抜粋）	
5. 市内の文化財	
6. 策定検討会の運営に関する要綱	
7. 検討委員会設置要綱	